

米軍MV-22オスプレイ墜落事故に伴う環境調査の結果（速報）について （お知らせ）

平成28年12月13日に起きた米軍MV-22オスプレイ墜落事故を受け、沖縄県が実施した墜落現場周辺の環境調査の速報値について、下記のとおりお知らせします。

記

1 調査内容

米軍MV-22オスプレイが墜落した名護市安部海岸付近において、墜落現場周辺の海水、底質及びビーチ砂を採取し、以下の項目について分析を行った。

(1) 調査・採取年月日、天候

平成28年12月19日（月）12:00～14:00 雨のち曇り

(2) 調査地点、調査試料及び調査項目

ア 調査地点（図1参照）、調査試料

- ① 規制区域内（海水、底質）
- ② 残骸収集地点（海水、ビーチ砂）
- ③ 嘉陽ビーチ（コントロール地点）（海水、ビーチ砂）

イ 調査項目

- ・ 調査地点での空間放射線量率（ガンマ線）
- ・ 海水・・・人工放射性核種、水質汚濁に係る環境基準の健康項目（重金属等）等
- ・ 底質、ビーチ砂・・・人工放射性核種、重金属等

2 調査結果（速報値）

- ・ 調査地点①～③での空間放射線量率は、表1に示すとおりで一般環境と同レベルであった。
- ・ 調査地点①～③の海水、底質及びビーチ砂中の人工放射性核種は、表2に示すとおりで検出されなかった。

※その他の項目については、分析中。

問い合わせ：

沖縄県環境部環境保全課 TEL：098-866-2236

表1 墜落現場周辺での空間放射線量率（ガンマ線）測定結果（速報値）

調査地点	空間放射線量率 (μSv/h)
①規制区域内	0.018
②残骸収集地点	0.043
③嘉陽ビーチ（コントロール地点）	0.031

※空間放射線量率は、現地にてNaI(Tl)サーベイメータで測定

※空間放射線量率は、1 μGy/h（マイクログレイ毎時）＝1 μSv/h（マイクロシーベルト毎時）として、測定値を換算して算出

※地面状況：①岩場、②砂地、③砂地

※参考データ 那覇市（県庁舎付近）の空間放射線量率（平成27年度）：0.042～0.073μSv/h

表2 海水、底質及びビーチ砂中の人工放射性核種分析結果（速報値）

調査地点	調査試料	人工放射性核種	単位
①規制区域内	海水	不検出	mBq/L
	底質	不検出	Bq/kg
②残骸収集地点	海水	不検出	mBq/L
	ビーチ砂	不検出	Bq/kg
③嘉陽ビーチ（コントロール地点）	海水	不検出	mBq/L
	ビーチ砂	不検出	Bq/kg

※ゲルマニウム半導体検出器により測定

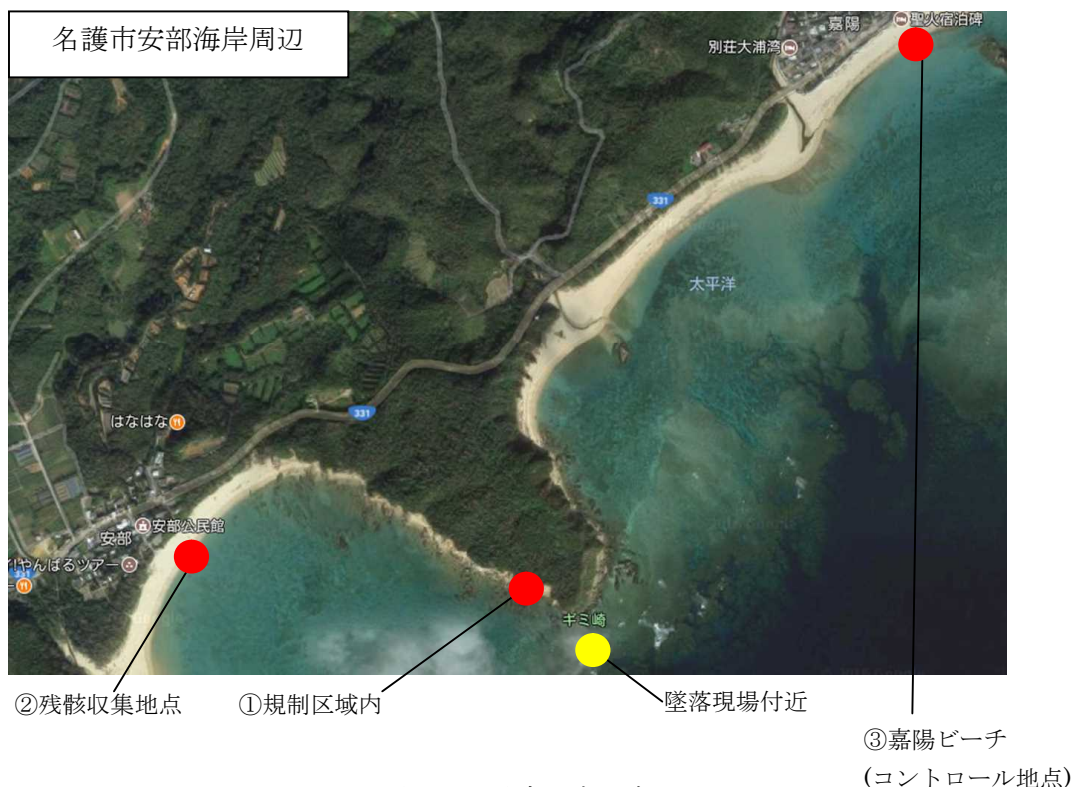


図1 環境調査地点

【用語説明】

○空間放射線量率とは

一定時間（通常1時間あたり）内の空間のガンマ線量をいう。

○人工放射性核種とは

核実験や原子炉で人工的に生成される放射性核種のことで、コバルト-60、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137などがあります。

その他の用語については、以下のURLをご参照ください。

環境放射能用語集 http://www.kankyo-hoshano.go.jp/kl_db/servlet/yg_s_select

（上のURLは、原子力規制庁の委託により公益財団法人日本分析センターが運営・管理しているものです。）